

### 食を通じた地域のつながり

#### 困窮者の食料支援に寄付を

新型コロナウイルス感染症の影響で増えている生活困窮者やひとり親家庭などへの食料支援体制を拡充するため、鎌倉市が10月1日～11月15日までガバメントクラウドファンディングで資金を集めている。

市は「ふらっとカフェ鎌倉」（渡邊公子代表）と締結している「生活困窮者に届ける活動もしている。渡邊代表は「ボランティアで活動しているが、市との連携で活動範囲が広がる。継続していきたい」と話す。

目標金額100万円は10月末達成したが募金は継続中。集まった寄付金は、食料の管理や配達、



「みんなの食堂」調理風景

ティクアウト容器、調理器具や消耗品などに充てる。申し込みは、鎌倉市共創計画部企画課画課ふるさと寄付金担当へメール、電話、FAXで連絡。☎0467・613845

#### コロナの終息願いや折り鶴で鎌倉を元気に

新型コロナウイルスの終息を願って、「明日の鎌倉をつくる会（田子祐司代表）」が「折りの折り鶴プロジェクト」を立ち上げた。写真。

市民に折り鶴を折ってもらい、鶴200羽と折った人の名前を短冊に書いてつるしたものを1組にして250組作成し、12月ごろ市内の商店街や、医療機関などに届ける。鶴を折る人を募集するとともに、協賛金を



鎌倉市は高齢者ドライバーを対象に、運転免許自主返納者に11月から割引助成券を交付

#### 高齢者の運転免許証自主返納者を支援 11月から割引助成券を交付

鎌倉市は高齢者ドライバーを対象に、運転免許自主返納者に11月から割引助成券を交付する。対象者は、満65歳以上で返納した人（満64歳の人で満65歳になる直前の運転免許更新期間中に返

## 文学つれづれ

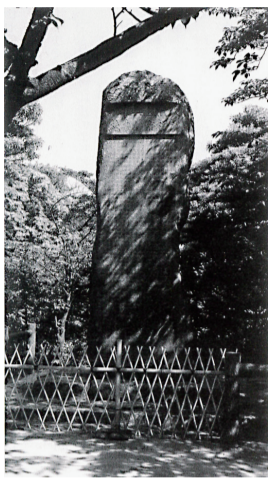
### 宮本武蔵(17)

赤羽根龍夫

比較から木質、中山道を通じて江戸に入ったが、道中、彼を仙台藩への仕官を勧める石母田外記が荷物の中に忍び込ませた大釜を返すために武蔵は陸奥へ旅立つ。

途中、田んぼの中で、ジヨウを捕る少年を見かける。有名な「ドジョウ伊織の物語」である。

伊織の父はもと最上家の家臣であったが、二君に仕えることを潔しとせず田夫で生涯を終えた。父の遺骸を墓地に運ぶために刀を



小倉の武蔵頭彰碑

伊織を指導して農民ととも灌漑事業に励む武蔵の大きな人間性に感動した、小倉藩家老・長岡佐渡が武蔵を小倉に呼ぶ話から、同

蔵の養子になり、寛永3(1626)年、15歳で小倉藩家に出仕した。武蔵45歳である。伊織は長じては、由比正雪と見破った話や、蔵自身の話は二、三しか残されていない。

2月に都内から移住してきた渡邊一樹さんの改装工事では、不登校の中学生が作業をきつかけに明るさを取り戻したエピソードも。

10月2日に逗子アートフェスティバル期間中東逗子駅舎を飾るポンポンの製作が行われ、これまでに個人宅で集まっていたという参加者は「東逗子にはこんな場所がなかったのだから」と笑顔。

「気軽に参加者がほしめたりする場所がほしい」という声にこたえた1階のカフェは無料休憩所を兼ねており、市内の情報も集まる。2階にはコワーキングも可能なレンタルスペースと作業療法士によるマッサージルームを創り出した」と話す渡邊さんは、地元有識者をガイドにした毎月

「気軽に集まったり、休めたりする場所がほしい」という声にこたえた1階のカフェは無料休憩所を兼ねており、市内の情報も集まる。2階にはコワーキングも可能なレンタルスペースと作業療法士によるマッサージルームを創り出した」と話す渡邊さんは、地元有識者をガイドにした毎月

#### 移住者が挑む新しいまちづくり 東逗子エントランス

JR東逗子駅のすぐそばに新たな交流拠点「東逗子エントランス」が10月完成し、地元の「寄りの合い所」として動き始めている。写真。



営業時間10時～18時(不定休) ☎070・4816・8405 渡邊さん

## 鎌倉朝日歌壇

香山 静子 選

花を愛で月を語り風をきき待ちこがれたる秋にときめく  
秋への傾斜が作者自身の言葉で表現されている。  
負け力士背に八の字の砂をつけホトホトと花道を去る  
ホトホトの擬音が効果的である。  
人參は産毛のような芽の一例が秋のやさしい風に揺れて  
「産毛のような」の比喩が新鮮。  
龍口寺の鐘の音届く江の島の展望台に朝日は昇る  
片瀬 中村 喬  
ゆるぎない描写によって歌は生きた。  
秋明菊 芙蓉の花もみな白を揃えて清し谷戸の寺庭  
桜からあぢきぬ・ひまわり・秋桜まで居座るコロナ簪立てるぞ  
湘南の小島の磯に浜木綿の白き花びら砂にこぼれる  
J Rの運べる客を吐き出せる紅葉を慕う北鎌倉  
葉山町 近藤 純  
枯蓮を積める小舟の櫂をこく風をあやつり水をあやつり  
玉繩 杉山 昭造  
あかあかと葉なきに咲ける曼珠沙華お不動様の御座に敷きたい  
津 石川 詔子  
折折に思いを詠まんと指おれどつむぎきれない言葉の欠片  
岡本 鳴海 紀政  
左から右から阿修羅を拜しをれば一瞬眼が合ふ愁ひの眼  
今泉台 下田 和夫

## 鎌倉朝日俳壇

星野 高士 選

源平の池や蓮の実飛はし合ひ 山ノ内 高橋 仁  
源平の池の背景にある鎌倉の歴史を踏まえた一句で、今もなお蓮の実を飛ばし合っている地を争ったかの様。  
《地》虫の音に夜汽車の音が遠くから 城廻 塩田 文字  
秋になって音にも敏感になつてくる作者。虫の音と夜汽車の音の距離間をうまく伝えた。下五が活きている。  
《心》みちのくの青田の風におほれけり川名 榎野あさ子  
青田の頃のみちのくは満面青田である。正に青田風におほれるように立ちまわっているのだから。  
金木犀散り敷くもなほ香のかすか 植木 風見 玲子  
咲いている時もそうだが、散っても香を広げることがこの季節。言葉の運びも大事なのが俳句。  
恙無く日々過ぎゆく青蜜柑 笛田 上田 満喜  
この様な句の決め手は季節。青蜜柑でうまく日々の流れを止めてくれた。季節が大事なのがよくわかる。  
秋蝶の大きな影に驚きぬ 藤沢市 三浦 和子  
秋蝶は少し小振りなので飛んでいるとわからないが影は大きい時もある。作者の情がうまうま伝わってきた句。  
秋深し趣味に興する老い二人 岡本 出蔵 紀政  
一輪に託すナースの返り花 笹目町 魚住 藤明  
命にも長短のあり罽雲 城廻 小美野 京子  
銀杏を漕ぎ漕ぎして社殿かな 材木座 羽賀 一男  
友に菓子届けし道の虫時雨 大船 添田 洋子  
入江の波立ち揺れる宝戒寺 藤沢市 森田 順子  
木犀の匂ふ起居となりけり 塩谷あい子  
たまに勝つ五目並べや稲光 本鶴沼 春山 多喜  
朝焼けの琉璃戸茜に冬はじめ 藤沢市 高口 道宏  
夕風のむらさきしきぶ色に吹く 腰越 松原 薫

**かまくらに住まう かまくらで生きる**

建物建築する時、木を段は長さが長ければ長いほど、太さが太ければ太いほど、厚みが厚ければ厚いほど、希少価値が高いので値筋・鉄骨・プレハブ・ハウジングが建てる家でも、育った地域によっても、さまざまなかたがたの価値があります。日本の住宅の多くは在来組法で建てられており、家全体が木でつくられています。

昔ながらの趣のある家文様がとも美しく、日本は、土台にクリ・ヒバ・ヒノキなど温気に強い材料、柱にケヤキ・スギ・ヒノキなど文様のきれいな材料、品価値の薄い材木の端切れを梁にマツやスギなど強度と粘りがある材料が使われて表面に木の模様を印刷しています。これらは全て無垢の材料でできていて、接合部の繋ぎ方に色んな工夫が凝らされています。材木の値

寺社建築で培った確かな技術と望み 455 の工法で地震台風にも強い家を実現しました。まずはお問合せください。

祝・鎌倉朝日 500 号おめでとうございます

清興建設株式会社 ☎0467-24-3700 担当/久下 9:00~17:00 定休日/水・日・祝

日向建設 鎌倉市大船1-15-3 ☎0467-47-5454 http://www.hiyuga.co.jp